

第36回



武芸川精工ベトナム



武芸川精工ベトナムは岐阜県関市に本社を置く武芸川精工の100%出資現地法人として2011年7月にホーチミン市のビンロック工業団地に設立されました。

主な事業内容は、鉄・アルミニウムなどの精密部品の機械加工、切削加工、特殊プラスチック焼結成型、プラスチック成型となっています。

今回は武芸川精工ベトナムの代表者である前川社長にお話を伺いました。

●業務内容

1. 工作機械・産業用ロボットスライドユニットの精密部品加工
2. シリコンウェハー、液晶ガラス基盤搬送用小型ロボット向けアルミ精密部品加工
3. 各種治工具の設計・作成

●ベトナム工場

Lot VB, Road 4, Vinh Loc IP, Binh Hung Hoa B Ward, Binh Tan Dist. Ho Chi Minh
TEL : (08) 3765-6135 Fax : (08) 3765-7056

●日本本社

岐阜県関市武芸川町平488

一進出の経緯

弊社は岐阜県に本社を置く精密部品加工企業として1982年に設立されました。

武芸川精工の主な事業内容としては、以下の3つがあります。

- ・ 工作機械・産業用ロボットスライドユニットの精密部品加工
- ・ シリコンウェハー、液晶ガラス基盤搬送用小型ロボット向けアルミ精密部品加工
- ・ 各種治工具の設計・製作

これまで、中国などから研修生を受け入れていたのですが、中国人研修生がトラブルを起こすことが多く困っていたところ、知り合いの伝手からベトナム人研修生を受け入れてみてはどうかとのお話を頂き、2006年からベトナム人研修生を受け入れたのですが、思った以上に真面目で優秀な人材が多く、以後は中国人研修生からベトナム人研修生へシフトするようになりました。

それから数年間は研修生を受け入れるだけだったのですが、弊社の主要お取引先様がベトナム北部のハイフォンに進出され、また弊社自身も今後海外へ進出していかなければ競争に勝ち抜いていけないという考えもあり、2010年ごろからベトナムへの進出を検討するようになりました。

当初はお取引先様の関係もあり、ハノイへの進出を検討しておりましたが、将来的にはベトナムの拠点からタイ、マレーシア、インドネシアなどASEAN諸国にも製品を輸出したいと考えておりましたので、地理的な条件も考えホーチミン市への進出を決めました。

工業団地の選定の際は、ホーチミン市近郊の様々な工業団地に足を運び調査を行ったのですが、当初予定していた工業団地が地盤の問題があり精密加工には向かなかったため、困っていたところ知り合いから現在のビンロック工業団地

を紹介していただいて、こちらに進出することになりました。

投資ライセンスは2011年7月13日に発給されまして、その後、機械設備などを設置し、11月から20名体制での生産がスタートしました。

現在では機械設備も増強し、人員も60名まで増強しています。

一事業内容

ベトナム工場では、工作機械を用いた精密機械部品の加工、製造と自動成型機を用いた特殊プラスチックの部品成型を行っております。また、今年からは射出成型機を導入してプラスチックの射出成型事業もスタートしました。

弊社の場合、操業当初は、日本への輸出が100%でしたが、現在は日本向けの輸出とベトナム国内向けの比率が50%:50%程度にまで、ベトナム国内向けが増えており、数ヵ月後にはベトナム側

の比率が日本側を超える見通しになっています。また、将来的にはタイ、台湾、マレーシアなどの周辺国にも営業開拓をしていきたいと考えています。



ーベトナム人スタッフの採用は苦労されましたか？

弊社の場合、人材採用に関しては当初様々な方法を試してみたのですが、最も効果的だったのは新聞の求人広告でした。立ち上げ当初の求人広告では1回の掲載で120名ほどの応募がありました。

実は前回は5名の募集を新聞に掲載したんですが、200名ほど応募がありましたので、非常に効果の高い方法だと感じています。特に給与を高く設定している訳ではないのですが、求職者は多いようです。後は、従業員からの紹介というのも結構ありますね。



ーベトナム人スタッフの評価は如何でしょうか？

ベトナムが日本で言われているような勤勉で真面目な国民性という評価が妥当かという少々疑問が無いわけでは無いですが、ポテンシャルは高いものがあると思いますし、他国と比べれば優秀な人が多いと感じます。ですから、冒頭にも申し上げましたが、弊社では2006年からベトナム人研修生を受け入れてきてお

り、現在も日本に15名ほどベトナム人研修生がいます。

また、ベトナム側でも、研修生を卒業した2名が工場長とリーダーとして中心になってくれています。

採用も最近では基本的には経験者は余り雇いません。未経験者を中心に採用して社内で教育することが多いです。

また、自主的に日本語の勉強をしたり、勉強会を開催したりしており、簡単な日本語なら意思疎通が可能なスタッフというのがどんどん増えています。教え方を工夫すれば直ぐ吸収しますし、やりがいは感じています。



ーベトナムで困ったことはありますか？

立ち上げ当初は困ったことだらけといえますか、特に手続き関係ではトラブルが多くありました。例えば、ピンロック工業団地では、当初予定していたレンタル工場の物件が、契約まで締結していたにもかかわらず、後に以前入居していた外資系企業が会社の清算手続きを行わないまま行方不明になってしまっているためライセンス申請が出来ないといわれ急遽、別の入居先を探さなければならなくなったことがありました。

また、弊社は輸出をメインとして考えておりましたのでEPEとしてライセンスを取得したのですが、製造用の機械を輸入する段階で税務署から弊社がEPEのライセンスを持っていることに対してクレームが入りました。ライセンスを提示しても納得してくれず、税務署に説明してもらうために工業団地管理委員会にお願いしたところ、工業団地管理委員会から発給した内容が間違っていたのでEPEを取り消したいといわれて大慌てしたこともあります。

結局はライセンスどおりで弊社の主張が認められたのですが、ベトナムではこのような手続きに関するトラブルが多く、困らされることも少なくありません。

ただ、幸いにして、ベトナム人スタッフや近隣の日系企業の駐在員の皆様のサポートのお陰で、様々なトラブルを無事乗り越えてここまで来ることが出来たと感じており、支えてくださった皆様には感謝の気持ちで一杯です。



ー今後の展開を教えてくださいませんか？

現在社員数が60名まで増えまして、機械の導入も進み生産体制としてはほぼ万全の状態が出来上がりましたので、図面さえ頂ければ、かなりのことが対応可能だと自負しております。今後はベトナム国内での受注を更に増やしたいと考えておりますので、精密部品の加工やプラスチック成型でお困りのことがあれば、お気軽にご相談いただければ対応させていただきます。

また、長期的な目標としましてはベトナムだけに留まらず、タイ、マレーシア、台湾などの仕事も請けられるようにしたいと考えていますし、そのために営業展開も計画しています。ASEAN全体を見ながら、会社を発展させていきたいですね。

ーありがとうございました。